

バイク災害救助に榮譽

日本真支部（支部長・遠藤知事）は28日、県赤十字バイク奉仕団（田中清也委員長）として15年活動し、顕著な功績を残したメンバー18人に銀色有功章を贈った。バイクの機動力を生かし、災害時に救急チームなどで救助活動などに貢献したことをたたえた。

県赤十字奉仕団

盛岡市三本柳の同支部で贈呈式を行い、18人のうち8人が活動用の黄色いベストを着けて臨んだ。平野直事務局長は章を手渡し「これからも真実の安全のため活動してほしい」と述べた。

奉仕団は阪神大震災や新潟中越地震の際にバイクが活躍したことを教訓に2006年結成。東日本大震災では被災者の救護に当たり、13年台風18号豪雨では被害の情報収集に取り組んだ。日頃、訓練やバイク講習などを重ね、出動に備えている。

震災時、他県から応援に駆け付けた救急車に乗り、搬送先の病院まで案内した矢巾町駅東の

機動力生かし15年活躍



銀色有功章を手にするメンバー。前列中央は平野直事務局長

会社役員斎藤孝彦さん(前)は「難をくぐり運んだが、今でも鮮明に覚えている。とだかく助ける」と若い世代の参画を呼びかけた」と振り返る。(佐々木佳世)

「地域の皆さんを守るため団員約100人から約100人に増えたが「高齢化が進み、技術や経験の継承が課題となっている」と若い世代の参画を呼びかけている。

難民支援 亡夫の思い形に

盛岡

盛岡市西松園の道

り

坂さん宅を訪れ「現在は新型コロナ

東松千乃会長から感謝状を受け取る道原恵子さん(右)

